

「言い訳」考（序説）

粕山洋介

1. はじめに

本稿は、現代日本語の「言い訳」という語を考察対象とし、主な意味・用法と思われるものを記述することを狙いとする。以下、本稿の構成を簡単に記す。

2節では、先行研究（辞書の記述）の不備を指摘する。

3節では、実例の分析を通して「言い訳」の3つの意味を記述するとともに、その認知的基盤についても若干の考察を行う。

4節では、今後の課題について簡単に述べる。

2. 先行研究の問題点

本節では、「言い訳（する）」⁽¹⁾ に対する辞書の記述を検討し、問題点を指摘する。まず、『講談社 類語辞典』は、「言い訳する」について、以下のように記述し、用例を挙げている。

自分のした失敗・過失などについて、自分は悪くない、あるいは、責任はないと思わせるために、事情を説明すること。「～するなんて男らしくないぞ」「そんな～は聞きたくない」（『講談社 類語辞典』 p.399）

ここで、以下の作例を見てみよう。

1 上司：例の書類、まだできないの。

部下：すみません、ちょっとコンピューターの具合がおかしくなっちゃいました。

上司：そんなのは言い訳だよ。コンピューターぐらい普段からちゃんとしておかなかちゃ。⁽²⁾

まず、「書類がまだできていない」ということは、上記の辞書の記述の「自分のした失敗・過失など」に相当すると考えられる。また、「ちょっとコンピューターの具合がおかしくなっちゃいました」という部下の発言は、辞書の記述の「自分は悪くない、ある

いは、責任はないと思わせるために、事情を説明すること」に当たり、この事情説明に対して、上司は「そんなのは言い訳だ」と捉えているわけである。このように見てくると、辞書の説明には一見問題がないかのように思われる。

だが、上司の「そんなのは言い訳だよ」という発言は、部下の事情説明を妥当ではない、あるいは受け入れられないと見なしたうえでのものである。つまり、失敗などの好ましくないことに対する当事者（= A）の事情説明に対して、その説明を聞いた人（= B）がその説明を妥当ではないと判断した場合に、その事情説明を「言い訳」と表現しているわけである。例1に即して言えば、「書類がまだできていない」ことに対する「コンピューターの具合がおかしくなってしまった」というAの事情説明を、Bは妥当だとは見なしていないということである。このことは、Bの「コンピューターぐらい普段からちゃんとしておかなくちゃ」という言葉からもわかる。

以上からわかるように、上記の辞書の「言い訳」の記述は、Aの側からのみ捉えたものであり、Aの事情説明に対してBが妥当ではないと判断するという観点が欠落している。さらに、上記の辞書の「言い訳するなんて男らしくないぞ」「そんな言い訳は聞きたくない」という用例は、明らかに、Aの事情説明に対してBが妥当ではないと見なしたものであろう。⁽³⁾

本稿では、以上のような問題点を踏まえて、「言い訳」という語の意味・用法に対する、より妥当な記述を目指す。

3. 「言い訳」の分析

3.1 「言い訳」の基本的意味

まず、以下の例を見てみよう。

2 悪意はないのかもしれないけれど——。妻に夫から言われて傷ついた言葉を聞いたところ、一位は「君も太ったね」（中略）だった。（中略）

なかには産後太りを気にしているが子育てでダイエットができないという女性(28)に「そんなのは言い訳だ、芸能人は出産しても太らない」と言う夫もいる。（『日経プラスワン』2007年4月21日、日経テレコン21）

以下、この例において、「言い訳」がどのような状況で、どのように用いられているかについて確認する。まず、妻が「産後太り」の状態であり、この状態を、妻本人と夫の両者が好ましくないと思っているということである。また、産後太りの状態に対する事情説明として、妻は「子育てでダイエットができない」と言っている。さらに言えば、妻は、自分が産後太りを解消できないのは、子育てという任務があるからであり、自分

の責任ではないと主張していることになる。産後太りに対する、妻のこのような事情説明に対して、夫は妥当ではないと判断し、「そんなのは言い訳だ」と述べているわけである。夫は自分の判断の根拠として「芸能人は出産しても太らない」とも言っており、妻が子育てに忙しい状況であっても、本人の努力次第でダイエットは可能だと考えていることになる。言い換えれば、もし夫が、「子育てでダイエットができない」という妻の発言を、産後太りに対する妥当な事情説明として認めたとすれば、「そんなのは言い訳だ」とは言わなかったはずである。

以上の説明を整理すると、以下のようになる。

- 1) 「妻が産後太りの状態にある」(= E₁) ことを、妻と夫の両方が好ましくないと
思っている。
- 2) E₁に対する事情説明として、妻は「子育てでダイエットができない」(= E₂) と
言う。
- 3) 夫は、E₂はE₁に対する妥当な事情説明ではない（つまりは、妻がもっと努力す
ればダイエットはできる）と判断する。
- 4) 夫はこのような判断を「言い訳」と表現する。

次に、以下の例を検討する。

3 二人は同い年で、都立高校のソフトボール部のチームメイトだった。(中略)

青豆は投手で四番打者で、文字通り投打の中心だった。大塚環は二塁手でチームの要で、キャプテンもつとめていた。(中略)

「この結婚はうまくいくわけではないよ」と青豆は環に言った。(中略) 二人はそのときに初めて激しい口論をした。環は結婚に反対されたことでヒステリックになり、青豆にきつい言葉をいくつか投げかけた。(中略)

しかし青豆と環はほどなく仲直りをした。(中略)

それでも結婚後、二人が顔を合わせる機会は急速に減った。手紙のやりとりは頻繁におこなわれたし、電話で話もした。しかし環には、二人で会うための時間を都合することがかなわないようだった。うちのことがいろいろと忙しいから、と環は言い訳をした。専業主婦というのもこれでなかなか大変なものなのよ、と。しかしその口ぶりには、彼女が外で誰かと会うことを夫は望んでいないらしいという感触があった。また環は夫の両親と同じ敷地に同居しており、自由に外出することもむずかしそうだった。(村上春樹『1Q84』BOOK 1、pp.291-298、新潮社)

まず、「環には、二人で会うための時間を都合することがかなわないようだった」とは、青豆は環と会うことを望んでいることから、青豆にとって好ましくないことである。この会う時間がないことに対する事情説明として、環は「うちのことがいろいろと忙しいから」「専業主婦というのもこれでなかなか大変なものなのよ」と述べている。言い換えれば、環の事情説明は、会う時間がないことについて、自分が悪いのではないと主張していることになる。さらに、会えないことに対する、この環の事情説明を、青豆は妥当な説明ではないと判断し、「環は言い訳をした」と表現しているわけである（言うまでもなく、「言い訳」という表現を選択したのは、著者であるが）。というのも、「しかしその口ぶりには、彼女が外で誰かと会うことを夫は望んでいないらしいという感触があった」「環は夫の両親と同じ敷地に同居しており、自由に外出することもむずかしそうだった」という箇所からもわかるように、青豆は、環が自分と会えない本当の理由は、環が言った通りのことではなく、別のことであると感じているからである。

以上の説明を整理すると、以下のようになる。

- 1) 「環には青豆と会う時間がない」(= E₁) ということは、青豆にとって好ましくないことである。
- 2) E₁に対する事情説明として、環は「うちのことがいろいろと忙しいから」「専業主婦というのもこれでなかなか大変なものなのよ」(= E₂)と言った。
- 3) 青豆は、E₂はE₁に対する妥当な事情説明ではない(E₂以外に本当の理由があると感じられる)と判断した。
- 4) 青豆はこのような判断を「言い訳」と表現する。

以上、2つの具体例に即して見てきたが、「言い訳」がどのような状況で、どのような事情説明に対して用いられるかを一般化すると、以下の通りである。

- 1) ある人(= A)に関して好ましくないことが生じた。(= E₁)
- 2) E₁について、Aが「自分は悪くない、自分には責任はない」といった趣旨の事情説明を行った。(= E₂)
- 3) Aとは別の人(= B)はそれを聞いて、E₂はE₁に対する妥当な事情説明ではないと判断した。
- 4) Bはこのような判断を「言い訳」と表現する。

上記の1)～4)を踏まえて、「言い訳」の意味(本稿で「言い訳」の基本的意味と考えるもの)を記述すると、以下のようになる。

「言い訳」の基本的意味

ある人（＝A）に関して好ましくないことが生じた（＝E₁）という状況で、E₁について、Aが「自分は悪くない、自分には責任はない」といった趣旨の事情説明を行った（＝E₂）ことに対して、Aとは別の人（＝B）が、E₂はE₁に対する妥当な事情説明ではないと判断した場合に、その判断を表すもの。

ここで、「ある人（＝A）に関して好ましくないこと」とはどのようなことであるかについて補足説明をすると、Aとは別の人（＝B）にとって何らかの意味で不都合なことであると思われる。たとえば、例文2の「妻の産後太り」は、（妻だけでなく）夫も望んでいないことである。また、例文3の「環には青豆と会う時間がない」ということは、環と会うことを望んでいる青豆にとって満足できないことである。裏を返せば、単にAにとって好ましくないこと、不名誉なことではない。たとえば、Aが歩行中、石につまずいて転んだということに対して、Aが「ちょっと考え事をしていて」と言った場合、Bがその事情説明を妥当ではないと判断しても、「言い訳を言うな」などとは言わないだろう。Aが転んだということは、Bに直接不利益をもたらすことではないからである。

3.2 「言い訳」の特徴が文脈に顕現する場合

本節では、上記の「言い訳」の基本的意味が特に「（事情説明をした人とは別の人が）E₂はE₁に対する妥当な事情説明ではない（と判断した）」という特徴を含むことに注目し、この特徴が文脈に明示されている事例を取り上げる。

4 米沢青年会議所（米沢JC、吉沢彰浩理事長）から求められた米沢市と川西町の合併協議会設置問題は25日、設置できないことで決着した。同日開かれた米沢市議会は賛成多数で設置を可決したが、川西町議会は賛成少数で否決し、判断が分かれた。川西町の否決に対し、吉沢理事長は「非常に民意とかけ離れた結果で、残念だ」と話した。（中略）

若者たちが火付け役になった、県内初の住民発議による合併協設置に反対した川西町側の言い分には、将来の地域ビジョンを描き切れなかったのと、「米沢市に吸収されるのは嫌」といった複雑な住民感情が見え隠れする。

町民から寄せられた多数の署名に対し、高橋和男町長は「真摯（しんし）に受け止める」としながら、「住民意識はまだ醸成されていない」ともいう。説得力に欠ける言い訳に聞こえる。（『朝日新聞』（朝刊）2002年6月26日、聞蔵Ⅱビジュアル）

この記事の概要を確認すると、「米沢市と川西町の合併協議会設置問題」について「川西町議会は賛成少数で否決し」たことに対して、高橋和男町長が「住民意識はまだ醸成されていない」と言ったことを、「説得力に欠ける言い訳」と記事の書き手は見なしているわけである。

さて、上記の通り、「言い訳」という語が使われるのは、簡単に言ってしまえば、Aに関する好ましくないことに対するAの事情説明に対して、Bが妥当ではないと見なした場合である。この事情説明に対して「妥当ではない」と判断するという「言い訳」の特徴が、例文4の「説得力に欠ける言い訳」における「説得力に欠ける」のように、文脈に顕在化することがある。つまり、「説得力に欠ける」という特徴は、「言い訳」に内在するものであるが、ここではあえて明示しているわけである。このことは、「説得力に欠ける言い訳」とは言えても、「説得力のある言い訳」とは言うことができないことから確認できる。さらに言えば、「説得力に欠ける」という表現は、「言い訳」を限定しているのではなく、「言い訳」に内在する特徴をあえて取り出して言語化していると考えられる。

ここで、「説得力に欠ける言い訳」といった表現は、国広（1967: 118）の「文脈顕現（の作業原則）」、つまり「言語形式の意義（素）はその文脈に顕現することがある（から、それをうまく把えるのが効果的である）」という言語現象（の意味分析の原則）に相当するものであると考えられる。「説得力に欠ける言い訳」の類例として、「大事な本を足で踏むとは何事だ」「名前を呼ばれたような気がしたので、後ろを振り返った」などがあるだろう。⁽⁴⁾つまり、「踏む」という動詞は「足で」という意味特徴を含み、「振り返る」という行為が行われる方向は必ず「後ろ」であるにもかかわらず、それぞれ「足で」「後ろを」という表現が顕現しているわけである。

もう1つ実例を見てみよう。

5 静かに降りしきる雨の朝、事故現場に電車の警笛が鳴り響いた。死者百七人を数えたJR福知山線脱線事故から丸二年。二十五日午前九時十八分。兵庫県尼崎市の追悼慰霊式典会場や現場では、参列者らが改めて犠牲者の冥福を祈り安全を誓った。遺族らは深まる悲しみに肩を震わせ、惨事の記憶を風化させないよう思いを新たにした。（中略）

「百六人も乗客の命が奪われたことをJR西日本は本当に自らのこととして受け止めているのか」。兵庫県尼崎市総合文化センターで開かれたJR西日本主催の追悼慰霊式。遺族代表の下浦邦弘さん（58）の慰霊のことばを代読する次男、雅弘さん（25）の声が高く響いた。

三男の善弘さん（当時20）を亡くした悲しみは癒えず、邦弘さんの気持ちが高ぶ

り、式には出席したものの雅弘さんに急きょ代読を頼んだ。会社の責任を回避する
ような言い訳を漏らす経営陣。遺族が土下座までして要請した面会を拒み続ける元
役員ら。「遺族みながつ怒りを伝えたい」と決めた言葉だった。（『日本経済新聞
（朝刊）2007年4月29日、日経テレコン21）

この記事は、JR 福知山線脱線事故から丸二年後の追悼慰霊式典での、遺族らの癒えない悲しみ、会社の対応に対する怒りについてのものである。「会社の責任を回避する
ような言い訳」という部分に注目すると、「会社の責任を回避するような」という表現が
「言い訳」を修飾している。つまり、「会社の責任を回避するような」というのも「妥当
ではない」ことの一種であり、「言い訳」に内在する特徴を明示したものであると考えら
れる。ただし、「会社の責任を回避するような」という表現は、どのように「妥当ではな
い」のかについて、より具体的に述べたものである。

3.3 「言い訳」と「理由」

続いて、「言い訳」という語に認められる、Aに関する好ましくないことに対するAの
事情説明に対して、Bが妥当ではないと見なすという特徴について、「言い訳」と「理
由」という両語の相違という観点から、さらに検討してみよう。

6 長野や大分、愛知などに続き、東京地区のタクシー料金が十二月にも値上げされ
る見通しになった。燃料費高騰に伴うコスト上昇や運転手さんの待遇改善が理由と
いう。（中略）

そもそもコストを基に価格を決めるのは、社会主義計画経済のやり方だ。燃料代
や待遇改善は消費者とは関係ない。値上げの言い訳にはなっても理由にはならない。
（『日本経済新聞』（朝刊）2007年10月10日、日経テレコン21）

まず、タクシー料金の値上げは、タクシー利用者（消費者）というタクシー業界の人
間とは別の人々が好ましくないと考えることである。この値上げに関する事情説明とし
て、タクシー業界は、「燃料費高騰に伴うコスト上昇」などを挙げているわけである。こ
れに対して、タクシー利用者の立場からこの記事を書いた人は、「コスト上昇」は「値
上げの言い訳にはなっても理由にはならない」と述べている。この記事の文脈に即して
この部分を解釈すると、おおよそ「コスト上昇は、値上げに対して、妥当性・説得力を
欠くものであって、妥当性・説得力を有するものではない」ということである。つまり、
ここでの「言い訳」も、好ましくないことに対する事情説明として「妥当ではない」と
判断するという特徴を持っているわけである。一方、「理由」の方は「妥当な事情説明」

といった意味を表していることになる。

ここで、「理由」という語の特徴について簡単に見ておこう。

- 7 a 身内の不幸は、欠勤の正当な理由だ。
- b 最近、いろいろな理由で会社を休む人がいる。
- c 最近、あきれた／とんでもない理由で会社を休む人がいる。

「理由」という語を修飾する表現がどのような評価的意味を表しているかを確認すると、7 aの「正当な」はプラス評価の意味を表し、7 bの「いろいろな」は特に評価的な意味は含まず、7 cの「あきれた／とんでもない」はマイナス評価の意味を表す。つまり、「理由」は、プラス評価、中立的評価、マイナス評価のいずれを表す修飾要素とも共起できるということである。このことから、「理由」は、プラスからマイナスに及ぶ範囲に対応する意味を有すると考えられる。さらに、上記の「値上げの言い訳にはなっても理由にはならない」というように、「理由」がマイナス評価の意味を持つ「言い訳」と対比的に用いられる場合は、プラス評価の意味を担っていると考えられる。

3.4 視点の転換を伴う「言い訳」

以上見てきた「言い訳」は、Aの事情説明を聞いたBが、その事情説明を妥当ではないと判断するという特徴を有するというものであった。つまりは、Aの事情説明を妥当ではないと判断し、「言い訳」と表現するのは、Aとは別の人であるBである。また、A自身が自分の事情説明に対して妥当だと思っているか否かは問題にしていないケースである。たとえば、例2における妻が、「子育てでダイエットができない」という自分の発言を、「産後太り」の事情説明として妥当だと思っているかどうかは、ここでの夫による「言い訳」という語の使用とは無関係であると考えられる。

以下では、Aが、(自分は妥当だと思っている)事情説明をしても、それを聞いた人は妥当な事情説明とは思ってくれないだろうと推定して、「言い訳」という語を用いる場合を取り上げる。言い換えれば、Aが、自分の事情説明を聞き手の視点に立って判断するという場合である。また、他者の視点に立って判断するとは、当然のことながら、他者の考え・判断を推定することになる。では、以下の例を見てみよう。

8 「ふつうの女の子に戻りたい」

この言葉を残して「キャンディーズ」が解散し、二十二年がたつ。「ランちゃん」は歌手からベテラン女優になった。(中略)

中学生のころ、プロダクションが運営する音楽学院に入学、歌手の後ろで踊るグ

ループに加わった。一九七二年、歌番組のオーディションに「スー」「ミキ」と合格、「キャンディーズ」と命名され、翌年歌でデビューした。アイドルとして一時代を築いたが、「周囲の優しさをきちんと受けとめる感覚」を失ったような気がして解散した。

約二年後、もともとの志望だった女優に転身し、芸能界に復帰した。「なぜ、戻ってきたの」。周囲から、そんな圧力を感じた。

「言い訳に聞こえるかも知れないけれど、戻るといふより、女優という新しい世界にゼロから飛び込む気持ちだった」（『朝日新聞』（朝刊）2000年2月7日、聞蔵Ⅱビジュアル）

この例における「言い訳に聞こえるかも知れないけれど」という「ランちゃん」（伊藤蘭）の発言は、「約二年後、もともとの志望だった女優に転身し、芸能界に復帰した」ということに対する「戻るといふより、女優という新しい世界にゼロから飛び込む気持ちだった」という自分の事情説明について、これを聞いた人は妥当な事情説明ではないと判断する可能性があるとして伊藤蘭自身が推定したこと、つまりは他者（聞き手）の視点に立ったものであると考えられる。このことは、「言い訳に聞こえるかも知れないけれど」における「聞こえる」が、明らかに「他の人に（そう）聞こえる」という意味であることから確認できる。⁽⁵⁾

ここで、「芸能界に復帰した」ということ自体を伊藤蘭本人がどう思っているのか、また、本人以外がどう判断すると伊藤蘭が推定しているかについて検討する。芸能界復帰について、伊藤蘭本人は好ましくないこと、特に問題になるようなこととは思っていないのに対して、「ふつうの女の子に戻りたい」とまで言って芸能界から引退したのであれば、芸能界に復帰するという事は好ましくないことだ（節操のないことだ）と他者は判断するだろうと伊藤蘭は推定していることになる。

また、「戻るといふより、女優という新しい世界にゼロから飛び込む気持ちだった」という事情説明についても、本人にしてみれば妥当であると思っているが、復帰自体を好ましくないとして判断する他者には、この事情説明も妥当だとは思ってもらえない可能性があるとして推定しているわけである。

以上をまとめると以下ようになる。

- 1) 「伊藤蘭が芸能界に復帰した」（= E₁）ことについて、伊藤蘭本人は問題のないことだと思っているが、他者の視点に立って、他者は好ましくないことだと判断する可能性があるとして伊藤蘭が推定する。
- 2) E₁に対する事情説明として、伊藤蘭は「戻るといふより、女優という新しい世

界にゼロから飛び込む気持ちだった」(= E₂)と言う。

- 3) 伊藤蘭は他者(聞き手)の視点に立って、他者はE₂はE₁に対する妥当な事情説明ではないと判断する可能性があるとして推定する。
- 4) 伊藤蘭は、以上の視点の転換および推定に基づき、E₁に対するE₂という事情説明を「言い訳」と表現する。

さらに、次の例を見てみよう。

- 9 四回、先頭のロドリゲスから松井秀までの3連続四球が響いて4失点。ビッグイニングをつくってしまったことに「理由を話せば長くなるし、言い訳になる」と何かをのみ込むように語った。

5 四球で沈んだ相手先発ペティットとともに、ばらつきがあった球審の判定に泣いた面はあったかもしれない。だが、それを口にして得にならないのは洋の東西を問わず。「技術が未熟なだけです」。自分に言い聞かせるように話した。(『日本経済新聞』(朝刊)2007年4月29日、日経テレコン21)

この例では、松坂大輔が「ビッグイニングをつくってしまったこと」という松坂本人にとってもファンなどにとっても好ましくないことに対して、「理由を話せば長くなるし、言い訳になる」と語っている。なお、この例は例8とは異なり、不甲斐ない投球をしたことを松坂本人も好ましくないことだと見なしていると考えられる。また、この例でも、例6と同様に、「言い訳」と「理由」が対比的に用いられている。さて、ここでの「理由」(を話すこと)も、不甲斐ない投球に対する事情説明として(ある程度の)妥当性を有するものと松坂が考えていることであろう(その「理由」の内容は、松坂の口からまったく明かされなかったわけだが)。一方、「言い訳になる」とは、もし自分が「理由」を話した場合は、他者は「言い訳」と捉える、つまりは、自身の不甲斐ない投球に対する事情説明として妥当性を欠くと判断するという他者の視点に立った推定に基づくものである。

以上をまとめると以下のようなようになる。

- 1) 「松坂が不甲斐ない投球をした」(= E₁)ことは、松坂本人にとってもファンなどにとっても好ましくないことである。
- 2) 松坂本人はE₁に対する正当な事情・理由があると考えているが、「その事情・理由」(= E₂)を口にしない。
- 3) 松坂は他者(聞き手)の視点に立って、E₂を言った場合、他者はE₂はE₁に対

する妥当な事情説明ではないと判断すると推定する。

- 4) 松坂は、以上の視点の転換および推定に基づき、E₁に対するE₂という（実際には言わなかった）事情説明を「言い訳」と表現する。

以上の視点の転換を伴う「言い訳」の意味をまとめると以下のようになる。

視点の転換を伴う「言い訳」の意味

ある人（= A）に関して好ましくない（と他者から判断される可能性がある）ことが生じた（= E₁）という状況で、E₁について、Aが行う「自分は悪くない、自分には責任はない」といった趣旨の事情説明（= E₂）に対して、他者は妥当な事情説明ではないと判断するとAが推定した場合に、その推定を表すもの。

ここで、基本的意味を表す「言い訳」（以下、「基本的な『言い訳』」）と視点の転換を伴う「言い訳」（以下、「視点転換の『言い訳』」）の関係について確認する。まず、基本的な「言い訳」の場合、Aに好ましくないことが起きたという状況で、Aの事情説明を聞いたBが、その事情説明を妥当ではないと判断して、「言い訳」と表現する。一方、視点転換の「言い訳」では、Aに好ましくない（と他者から判断される可能性がある）ことが起きたという状況で、Aの事情説明に対して、A自身が「言い訳」という語を用いる。

ここで特に注目すべきことは、視点転換の「言い訳」の場合、「言い訳」という語を用いるのはAであるが、自分（= A）の（する可能性がある）事情説明について単に自分で妥当ではないと判断して「言い訳」と述べているわけではなく、他者の視点に立ち、自分の事情説明を聞いた他者は、それを妥当だとは判断しないだろうという推定が含まれているわけである。

ただし、基本的な「言い訳」と視点転換の「言い訳」は、いずれもAに関する好ましくないことについてのAの事情説明に対して、妥当ではないと判断するのは、Aとは別の人（= B）であって、違いは、AがBの視点に立ってBの判断を推定するという過程を含むか否かに過ぎないとも言えよう。

以上のように、本節で検討した視点転換の「言い訳」は、他者の視点に立って自分の事情説明の妥当性について推定するという視点の転換を前提にしていると考えられる。このように、ここでの「言い訳」は、他者の視点に立って物事を捉えるという認知能力を基盤としていることになるが、この種の認知能力は、「言い訳」に限らず、他の言語表現の基盤ともなっている。次節では、他者の視点に立つという認知能力を基盤とする言語表現に関するこれまでの研究について簡単に確認する。

3.5 視点の転換を基盤とする諸表現

まず、深田・仲本(2008: 44)は、先行研究を踏まえて「概念化者は、他者の視点に立って事態を解釈することも可能である」と指摘している。ここで、「他者の視点に立って物事を捉える」(以下「他者視点」)という認知能力の位置付けについて簡単に確認する。まず、他者視点は、「概念化者自身の視点以外の視点に立って物事を捉える」(以下「概念化者以外の視点」)という認知能力の一種である(Langacker(2008: 73-78)などを参照)。というのは、人間は、他者に限らず、多様なところに視点を設定して物事を捉えることができるからである。さらには、概念化者以外の視点は、「同じ事態を異なる捉え方(imagery / construal)で捉える」という包括的な認知能力の一種である(Langacker(1987: ch.3, 1988, 2008: ch.3), Croft and Cruse(2004: ch.3)などを参照)。以下、他者視点を基盤とする言語表現について具体的にみる。

まず、Langacker(1987: 131)は、母親から子どもに発せられた、*Don't lie to your mother!* という文に注目している。この文では、母親が子どもの視点に立って、自分のことを *your mother* と言っているわけであり、明らかに、(他者である)聞き手の視点から自分を捉えることに基づいている。この種の表現は、日本語でも可能である。「お母さんが教えてあげるよ」「お父さんが手伝ってあげようか」などの表現が考えられる。

続いて、国広他(1982: 241-249)の記述を参考にして、「人(ひと)」という語について検討する。まず、「人に頼ってはいけない」における「人」は、「(誰かから見た)別の人間」を表す。さらに、「人が親切に教えてやっているのに」における「人」は、話し手(この表現を発した人間)を表しているが、これは他者視点に基づくものである。つまり、この場合の「人」も聞き手から見た別の人間を表していると考えられるが、その場に聞き手とは別の人間が話し手しかいなければ、「人」という語で話し手を表せるわけである。

さらに、Langacker(1987: 141, 1988: 85)の *go* と *come* に関する記述も他者視点に関わるものである。たとえば、サンディエゴにいる話し手が、電話でシカゴにいる人と話す場合、*I will go to Chicago tomorrow.* とも、*I will come to Chicago tomorrow.* とも言うことができる。つまり、同じ移動を、話し手自身が実際にいる所を視点として描写することもできるし、聞き手の視点に立って述べることもできるということである。

以上、他者の視点に立って物事を捉えるという認知能力が、「言い訳」以外の言語表現の基盤ともなっていることを簡単に見た。

3.6 自分に対する「言い訳」

まず、次の例文を見てみよう。

10 考えてみると妙な親子だったが、私たちもいわれるままに子供のくせにいなせにトレンチコートを着こなしていたものだ。そして通学の横須賀線の電車の中でそれが女学生の間で評判になっていたそうな。彼女たちは密かに弟のことをミスター・トレンチと呼んでいたという。

ならば兄の方の評判はどうかと、これも親馬鹿の母が聞いてみたら、私の方はなんとなくとっつきにくく怖いような印象ということだった。あるいはそれは彼女の機知からきたお世辞だったかも知れないが、母からそう聞かされた時、私自身も多分そうだろうなとは思った。気取ってもしようがないのに、それ以上に振る舞えない自分がいまいまでもあったが、兄という立場から仕方ないのだと自分にいい訳するしかなかった。（石原慎太郎『弟』、p.92、幻冬舎文庫）

まず、「私の方はなんとなくとっつきにくく怖いような印象ということだった」ということは、「私」にとって好ましくないことである。この好ましくないことについて、「兄という立場から仕方ないのだ」とあることから、まずは自分には責任がないと捉えていることになる。ただし、「兄という立場から仕方ないのだ」に続いて、「と自分にいい訳するしかなかった」とある。このように、「兄という立場から仕方ないのだ」という事情説明を、「言い訳」と捉えている。つまりは、「私」はこの事情説明を自分自身で妥当だとは考えていないことになる。さらに言えば、たとえ自分が「兄という立場」にあっても、もっと努力すれば、「とっつきにくく怖いような印象」を与えずにすむといったことを、「私」は多少なりとも考えているわけである。もし「(自分が) 兄という立場」にあることを、正当な理由と見なしているのであれば、「自分にいい訳する」ではなくて、「兄という立場から仕方ないのだと自分自身(大いに)納得した」というような表現をするであろう。以上から、ここでの「言い訳」(以下、「自分に対する『言い訳』」)の意味をまとめると以下のようなになる。

自分に対する「言い訳」の意味

ある人(=A)に関して好ましくないことが生じた(=E₁)という状況で、E₁について、Aが「自分は悪くない、自分には責任はない」といった趣旨の事情説明を思いつづいた(=E₂)際に、A自身が、E₂はE₁に対する妥当な事情説明ではないと判断した場合に、その判断を表すもの。

さて、自分に対する「言い訳」は、これまで見てきた基本的な「言い訳」と視点転換の「言い訳」とどのような共通点・相違点を有するか検討する。まず、Aに関する好ましくないことに対するAの事情説明を、誰かが妥当ではないと判断するという点では共

通である。

一方、ここでの「言い訳」は、事情説明を妥当ではないと判断するのが誰かという点で、他の2つの「言い訳」と異なる。そもそも、自分に対する「言い訳」の場合、関与する人は1人だけである。基本的な「言い訳」と視点転換の「言い訳」の場合は、少なくとも2人の人が関与し、(他者の視点に立って推定するというプロセスを無視すれば) Aに関する好ましくないことについてのAの事情説明に対して、妥当ではないと判断する人は、Aとは別の人である。それに対して、自分に対する「言い訳」の場合は、Aに関する好ましくないことについてのAの事情説明に対して、妥当ではないと判断する人は、A本人である。

4. おわりに

本稿は、「言い訳」の3つの意味について記述し、その認知的基盤について若干の考察を行ったが、残された課題は多い。

まず、「言い訳」には、本稿で扱えなかった意味・用法がある。たとえば、「経験不足は言い訳にならない」という場合の「言い訳」は、本稿で取り上げた「経験不足は言い訳にはなっても理由にはならない」とは異なり、「妥当な理由」に近い意味を表していると思われる。また、「うまい言い訳がなかなか思いつかない」といった「言い訳」の記述も今後の課題である。

また、「言い訳」を「弁解」などの類義語と比較して分析し、「言い訳」の意味・用法の記述をより精緻なものにする必要がある。

さらに、「言い訳」の意味・用法の認知的基盤をより深く考察することも重要な課題である。

注

(1) 「言い訳」には、名詞としての用法に加えて、「言い訳する」という動詞の用法もあるが、本稿では両者の違いには注目せず、意味の記述を行う。

(2) 例文中の「言い訳」などの考察対象語には実線の下線を施し、何らかの観点から注目すべき部分には点線の下線を施す。

(3) 『大辞林』(第三版)、『新明解国語辞典』(第七版)、『明鏡国語辞典』(第二版)などの「言い訳」の語釈も、『講談社 類語辞典』と同様である。ただし、『明鏡国語辞典』(第二版)は語釈に続いて、「清潔さを欠く行為としてしばしばマイナスに評価される」という補足説明がある。この記述は、Aの行為(事情説明)に対してBがマイナスに評価すると解釈すれば、本稿での主張とつながりがある。

(4) 「振り返る」については、初山(2012)も参照のこと。

(5) 「～に聞こえるかもしれないが」といった言い方で、「言い訳」と同様の用法を持つと思われる名詞には、「弁解／言い逃れ／うそ／自慢」などがある。

引用文献

- 国広哲弥（1967）『構造的意味論』（ELEC 言語叢書）、三省堂
- 国広哲弥・柴田武・長嶋善郎・山田進・浅野百合子（1982）『ことばの意味』3、平凡社
- 深田智・仲本康一郎（2008）『概念化と意味の世界—認知意味論のアプローチ』、研究社
- 初山洋介（2012）「多義語における統合的關係と多義的別義的關係」、『名古屋大学 日本語・日本文化論集』19、pp.67-87、名古屋大学留学生センター
- Croft, W. and D. A. Cruse (2004) *Cognitive Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar Vol. 1*. Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, R. W. (1988) “A View of Linguistic Semantics.” In Brygida Rudzka-Ostyn, ed., *Topics in Cognitive Linguistics*. pp.49-90. Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins.
- Langacker, R. W. (2008) *Cognitive Grammar : A Basic Introduction*. Oxford / New York: Oxford University Press.

辞書類

- 北原保雄（編）『明鏡国語辞典』（第二版）、大修館書店
- 柴田武他（編）『講談社 類語辞典』、講談社
- 松村明（編）『大辞林』（第三版）、三省堂
- 山田忠雄他（編）『新明解国語辞典』（第七版）、三省堂